



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2021～2022 年度 テーマ

プロバスだより 第319号

2022 年 6 月 9 日発行

編集・発行 情報委員会

プロバスライフを「元気に楽しもう」

臨時総会

日 時 令和 4 年 5 月 12 日 (木)

場 所 八王子エルシィ

出席者 37 名

(会員総数 50 名、欠席 11 名、休会 2 名)

1. 開 会 野口例会副委員長

只今より臨時総会を開催します。

2. 会長挨拶

本日の議案は第 I 号議案のみです。よろしくご審議ください。

河合 会長



3. 議長選任

恒例により会長が議長を務め、河合会長が議長席につき、会員総数と出席者数を確認、本総会が有効に成立したことを宣言し、議事に入った

4. 書記・議事録署名人の選出

書記に高取和郎会員、議事録署名人に武田洋一郎会員、土井俊玄会員が選任された。

5. 議 事

第 I 号議案「東京八王子プロバスクラブ
2022～2023 年度役員人事 (案)」

理事 (敬称略)

下山 邦夫、池田ときえ、杉山 友一
馬場 征彦、河合 和郎、野口 浩平
山口 三郎、持田 律三、一瀬 明
寺山 政秀

会計監査 (敬称略)

岡部 洽、杉田 信夫

第 I 号議案について議長から説明があり、審議の結果賛成多数で可決承認された。

6. 議長解任

第 319 回例会

1. 開 会 野口例会副委員長

第 319 回例会を開催します。本日の出席者数は 37 名、出席率は 77% です。

2. 会長挨拶

改めまして皆様今日は。5 月例会へのご出席ありがとうございます。

また、只今の臨時総会ではスムーズなご審議有難うございました。新年度へ向けての骨格人事が無事に固まり、何よりだと思

河合 会長



います。
連休が明けました。懸念されておりましたコロナの感染状況が少し怪しげであります。大きな波の来ないことを願っております。

本日の配席は例会委員会のお骨折りで円卓方式となっております。お互いに顔の見えるテーブルの良さを再認識いたしました。本日の例会では、橋本鋼二会員による「卓話」も予定されております。

例会が楽しく充実したものになりますことをご期待申し上げ、挨拶といたします。ありがとうございました。

3. ハッピーコイン披露

池田副会長からハッピーコイン 17 件の披露がありました。(4～5 ページに掲載)

4. 米寿のお祝い

橋本鋼二会員が米寿を迎えられましたので、プロバスクラブからお祝金を贈呈しました。

橋本会員より一言ご挨拶を頂きました。



5. パースデーカードの贈呈

5月生れの会員に池田会員手作りのパースデーカードが贈られた。



写真左から橋本会員、有泉会員と会長

6. 5月のラッキーチャンス

今月のラッキーチャンスの当選者は、有泉会員、岩島会員、鈴木会員でした。

7. 幹事報告

山口幹事

まず昨今のコロナの感染状況については減少傾向にあったものの、また盛り返して来ている感もあります。ゴールデンウィークの連休もあけ、今後どういった状況になるのでしょうか？是非とも良い方向に行ってもらいたいものです。

本日の円卓による例会、何か月振りでしょうか。一部会員から強い要望もあり、学校スタイルから従来の円卓方式に戻すことを理事会で決定しました。1テーブル最少人数としアクリル板も付けています。マスクをしつつ会話を楽しんで頂ければと思っています。

橋本鋼二会員の米寿祝をお知らせします。本当におめでとうございます。また、本日は卓話もお願いしています。どうぞよろしく願いいたします。

会員委員長より詳細説明があらうかと思いますが、杉山会員より新会員の推薦がありました。理事会に

て承認いたしました。6月の例会から参加される予定です。

本日の臨時総会にて第I号議案が全員の賛成で承認されました。有難うございました。

8. 委員会活動報告

(1) 情報委員会

内山委員長

今月号は塚本会員の卓話が入りましたので、4頁に収まりました。今回は丸山会員が編集を担当しました。今月のホームページへのアクセス件数は187件でした。前月と比較し80件ほど減少しています。

毎回皆様をお願いしておりますが、充実した誌面作りを考えておりますので、寄稿文などを是非お寄せください。

(2) 交流担当

一瀬 明

「東京八王子2022」関係

「東京八王子 2022」に関し全日本プロバス協議会加盟51クラブに対して第1回目の開催案内を4月28日に発送しました。早速返事が届いたり、問い合わせがいくつかあり反応はまずまずだと思います。また、コ・ホスト3クラブとのミーティングを4月20日に実施いたしました。各クラブへのお願い事項を説明し認識の共有ができました。積極的なご協力をいただけるようで心強い限りです。

全日本プロバス協議会関係では先月ご報告の通り、11月総会の議案を審議する持ち回り常任理事会、理事会が書面で行われていましたが、「当クラブの会長就任、次の第11回総会の奈良開催、会則の改正」などを議案とすることが決まったとの報告を全日本の幹事長より受けております。

5月例会の翌日5月13日(金)に横濱プロバス倶楽部の例会にお邪魔し交流する機会を得ました。東京八王子からは田中、飯田、一瀬の3名、例会後の二次会も含めて先方大変な歓迎を受け、秋の当方での大会への多数の参加も確約していただき、例会の在り方やプロバス活動の理念の多様性を学ぶ実りの多い機会となりました。

(3) 創立25周年記念事業

杉山委員長

先月の例会で報告しましたように、3月20日開催の「小・中学校音楽活動優秀校音楽祭」をもって記

念事業の全ては終了となりました。皆様方のご協力に感謝する次第です。

9. 健康フェスタ・食育フェスタ開催 岡本 宝蔵

八王子市は、毎年5月の第3日曜日（今年は5月13日）を「市民健康の日」と定め「はちおうじ健康推進協議会」主催で啓発活動を実施しています。

今回のテーマは「遊んで学べる！運動と食で負けないカラダづくり！」とし、大人から子どもまで、みんなが健康づくりや食育について学べるイベントとして開催された。

会場のエスフォルタアリーナでは、ニュースポーツ、体力測定、血管年齢測定、握力測定などの健康度チェックができ、食育ブースでは減塩のコツ、減塩レシピの配布、プチ食事相談、食品衛生情報の提供、スタンプラリーなど数多くのコーナーがあり、盛り上がりのあるイベントでした。



また、地元のバスケットチームである「東京ビートレインズ」によるバスケットボール教室、チア教室も併せて催され、

多くの皆さん方が参加されました。

当クラブの塩澤会員は、このイベントの実行委員長を務めていることから、当プロバスクラブとしても受付係として来場者や参加者の案内、資料配付、また、コロナウイルス感染症対策としての



体温測定、手指の消毒などの業務を担当しました。今回の来場者数については、主催者側の発表はありませんでしたが、1,000名を超えたように感じています。参加者の皆様が体験を通じて楽しい日々を送られることを念じ幕が閉じられました。ご協力いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

10. 卓 話

私の「自分史」から（抄） — 八王子を出て八王子に戻る — 橋本 鋼二



「自分史」という言葉に市民権が与えられるようになったのは、歴史家色川大吉の『ある昭和史 — 自分史の試み』（1975年、中央公論社）の出版以後だろうといわれている。広辞苑第六版では〈平凡に暮らしてきた人が、自身のそれまでの生涯を書き綴ったもの。自伝〉とあるが、個人史、自伝などとはニュアンスの異なる類語である。

私の自分史を手短にまとめてみよう。両親は八王子千人同心の末裔なので、“八王子っ子”ということになる。太平洋戦争開戦の年に八王子市立第一国民学校に入学し6年間をすごしたので、小学校という名前の付く学校には入学しなかった唯一の世代である。5年生の時に八王子大空襲を体験。学制が変わり新制中学・高校を卒業した。高2の頃から家出願望が強まり、18歳で八王子を離れて北海道大学に進学した。卒業後、農林省に入省、研究職として水稻育種、大豆の冷害、大豆育種分野の研究にかかわり、研究管理者として米余りによる「水田転作」という農政の大変換期に大豆の技術者として農政のお手伝いをした。

在職中から退職後まで海外での研究、技術協力にかかわる機会が多く、外国暮らしはオーストラリア・キャンベラ、タイ・チェンマイ、パラグアイ・エンカルナシオンで、通算5年8カ月になる。



< 稲株に大豆を播種する乾季作 (北タイ、1975) >



< 大豆畑での交流 (中国・黒竜江省 1976) >



< ブラジル北部の大豆畑 (1999) >



< パラグアイの大豆研究者とともに (2001) >

1988年、家族は八王子に居を構えたが、私はつくば、十勝、上越と勤務地が変わり単身赴任を続け、農水省を退職後も海外出張や海外勤務が続き、八王子に定住したのは2001年4月からで、五十余年ぶりの出戻り市民となった。いわば“今浦島”なので、父の没後に父の友人であった大野聖二さんご夫妻に何かとお世話になっていた。その大野さんが二度目の会長を務めている頃、東京八王子プロバスクラブの話が出て関心を持ち、2002年に入会をお願いした。会員の方々とお付き合いも深まり現在に至っている。

もう一つは、父が始めたみんなに文を書かせようという「ふだんぎ」運動に夫婦でかかわっている。父のライフヒストリーをまとめた「万人に文を 橋本義夫のふだん記に至る道程」が日本自費出版文化賞を頂けたのは、望外のことであった。おまけに2020年には自分史をまとめることもできた。

88歳になった私に卓話の機会が与えられたので、画像を見ていただきながら、八王子を出て八王子に戻った話をしました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

橋本会員の著作を紹介します。

『万人に文を 橋本義夫のふだん記に至る道程』

(揺籃社)

ふだん記活動に一生をかけた父上、橋本義夫氏を追悼する一代記です。

八王子の歴史、文化活動の記録でもあります。

『おおすず こすず』(揺籃社)

本の題名、おおすず こすずは大豆の品種の名前。南米の地で豆博士として活躍した筆者の思いがこも

っています。5月の卓話を思いながら読むとなお感慨が深まります。

いずれも個人史でありながら、明治、大正、昭和の時代背景がよく書き込まれていて興味深いものがあります。
(記 池田)

11. プロバス賛歌

起立、黙唱

12. 閉会

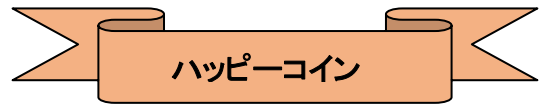
池田副会長

久しぶりの円卓の食事は皆さんの顔が見えて楽しいものです。

今回は豆博士、橋本さんのご活躍を知る卓話でした。ありがとうございました。

来月は新しい会員をお迎えします。八王子2022も動き出しました。

6月例会も元気で一緒にしましょう。



◆武田会員からの情報提供で先日「よこやま南パレードフェスティバル」に我々の音楽祭にコロナのため出場できなかった清水小が出るというので観に行ってきました。元気な行進を観ることができハッピーでした。
一瀬 明

◆「東京八王子2022」のコ・ホストをお願いした3クラブに集まっただき情報共有のためミーティングを実施した。積極的な協力体制が期待でき、誠に有難いことであります。
一瀬 明

◆先月末「東京八王子2022」の一発目の開催通知を全国各プロバスクラブに持田事務局長の骨折りで発送した。多くのクラブの参加を期待したい。
一瀬 明

◆人生は旅、それも長旅です。お陰さまで、この5月ダイヤモンド婚を迎えました。大きな人生峠をまた一つ越えて、余生何年？ 枯野の先の風景が気になります。
杉山 友一

◆今年はお天気がはっきりせず、ちょっと楽しくないかなあ〜。でも今日は久しぶりの円卓での例会で

ウキウキ！！

土屋三千代

◆大型連休1人でノンビリ。 杉田 信夫

◆池田さんいつもバースデーカード有難うございます。先日、東京の西のはずれの三頭山荘へ新緑狩と山菜料理を味わいにバス旅をしてきました。

有泉 裕子

◆ウクライナの惨禍が早く終わりますように。

土井 俊玄

◆プーチン大統領の悪夢が早くさめて、ロシアの侵略行為が終わり、平和が訪れますようにお祈りして

土井 俊玄

◆第一小学校大先輩の橋本鋼二会員の米寿を祝して、おめでとうございます。

野口 浩平

◆88 歳になりました。今月は昔話をします。よろしくをお願いします。

橋本 鋼二

◆全日本プロバス協議会八王子大会が 11 月 24 日、25 日と開催されます。その第一報の開催案内を郵送しました。51 のプロバス宛でした。参加見込みのアンケート葉書も入れましたので、多くの Happy な回答があることを祈ります。

持田 律三

◆コロナは未だ終息しませんが、例会に出席でき幸せです。

高取 和郎

◆今日の卓話、橋本鋼二会員です。楽しみにしています。よろしく願いいたします。

飯田富美子

◆久々に円卓での例会、やっぱり、まわりの方のお顔が見られるのは嬉しいです。次年度には、この形で毎月できると嬉しいです。

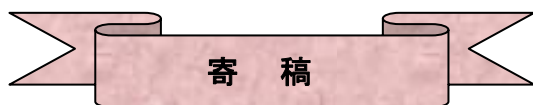
飯田富美子

◆久しぶりの「丸テーブル」！ 6月例会もと祈っています。

馬場 征彦

◆コロナ騒ぎが完全には収まらない中、我がクラブの例会が用心しながらも着実に開かれていることに心から感謝して。

田中 信昭



「天ぬき」のお話し

久野 久夫

天ぬき（単に「ぬき」とも云う）は、蕎麦屋で使われる江戸っ子言葉の一種で、天ぷら蕎麦（天ぷらに乗せたかけ蕎麦）から蕎麦を抜いたもの、つまり温かいめんつゆに天ぷらだけを入れた天ぷらの吸物

と思ってもらえば宜しいかと。昨今は天ぬきを知らない人が多いが、これは板わさや田楽、玉子焼と並んで蕎麦屋では、つまみの定番である。天ぬきが注文される背景としては、例えば蕎麦屋で酒（日本酒など）のつまみに天ぷら蕎麦を頼んでしまうと、吞んでいるうちに蕎麦が伸びてしまうため、打ちたての蕎麦の旨さを味わえないという理由に加えて、冷たくなった揚げ置きの天ぷらを温かく食べる術でもあったのであろうか。更に加えて酒を吞んでいる時には腹にたまるものは食べたくないという酒呑み独特の美学によるものと考えられる。爛酒を一杯やりながら天ぬきの衣が崩れきらないうちにサッサと食べて、余った酒はせいろに盛られた蕎麦を肴にグビリと。かくして蕎麦と酒もピッタリと決まるのである。



この天ぬきであるが最近では、この品書きに滅多にお目にかかることがない。しかし、品書きには無くとも、できない一品ではないので、どこの蕎麦屋でも頼めばたいがい作ってもらえる（立食い蕎麦では無理か?）。少し脱線するが天ぷら屋と蕎麦屋では、天ぷら用の粉に異なるものが用いられることがある。天ぷら屋では、素材の食感を出すために薄力粉で衣をつくり、蕎麦屋ではつゆの染みが良いように強力粉でつくると云う考え方がある。ただし、それは蕎麦屋が天ぷらを揚げ置きで供している場合のことであり、諸兄が足を運ばれるような客の注文に応じて都度揚げる高級店ではその限りではない。また、揚げ方も異なるとされ、蕎麦屋ではつゆを吸って旨くなるようにひと手間かけ、つゆを十分に吸ったものを爛酒に合うように工夫をしている。何れにしる蕎麦屋は吞兵衛のために色々工夫・努力をしているようです。ところで「お姉ちゃん！熱いのを一杯くんな。それから天ぬき、あ〜蕎麦は後でいいよ」……こんな洒落た台詞が通るような店をどなたかご存知ないですか。

天ぬきに 熱爛とせむ 蕎麦待つ間

（注）ここでの天ぬきと云う言葉は、必ずしも全国的に通用する言葉ではなく、地域や店によっては、

天ぷら蕎麦から天ぷらを抜いた蕎麦（かけそば）が出されることもあるため、注文の際には念のため確認が必要なこともある（無粋ですが）。



ちまき

五月五日には、「柏餅」を食べ、菖蒲湯に入るという習慣は今も続いています。この頃になると不思議と思われのが、何時覚えたかは判然としませんが、「柱の傷は おとしの 五月五日の 背くらべ」という童謡「背くらべ」の一節です。この童謡の一番はすらすらと口先に出てきますが、二番は思い出せません。不思議な感じがします。この童謡に出てくる「ちまき」については全く関心を持っていませんでした。

広辞苑には、「粽とは端午の節句に食べる糯米（もちごめ）・粳（うるち）米粉・葛粉（くずこ）などで作った餅。円錐形に固めて笹や菰（こも）などの葉で巻き藺草で縛って蒸したものとあります。中国では、汨羅（べきら）の淵に投身した政治家屈原の忌日が五月五日なので、その姉が弟を弔うために、当日餅を汨羅に投じて虬竜（きゅうりょう）を祀ったのに始まるとされている。とありますが、諸説があって定まっていない。」と記載されています。

関東では、節句には「柏餅」は食べるが、「ちまき」を食べる風習はありません。不思議に思い調べてみると、関西では「粽」を、関東では「柏餅」を五月の節句に食べるという風習があることが解りました。関東が柏餅なのは武家社会であったことが関係しているようです。

童謡「背くらべ」の作詞は海野厚（うんのあつし）。海野は童謡作家、俳人で、中山晋平らと共に「子供達の歌」を出版。雑誌「海国少年」の編集長を務めたが、28歳の若さで亡くなっている。作曲は「カチューシャの唄」や「ゴンドラの唄」などのヒット作品を作曲した人で知られる中山晋平でした。

作曲家中山晋平は、教職員・卒業生名簿によると、一時、府立第二中学校（立川高校の前身）の音楽の教師でした。大正12年から大正13年までの1年間、「唱歌」の教師として勤めていました。この時代、教科は「音楽」という言葉は使わず「唱歌」が使われていたとは知りませんでした。（雅）

俳句同好会便り

私の一句〈五月の句会から〉

河合 和郎

最近ほどの句会でもウクライナの惨禍を取り上げる作品が多くなった。誰しもが願う平穏な日常が当たり前の世界の実現を願って止まない。

パンダだと大輪パンジー指さす子 下山 邦夫

パンジーの花の取り合わせがパンダに見えた子の叫び。「パンダみたい!」「子」の兼題句。

戦乱の国の子想ふ子どもの日 飯田富美子

「子供の日」だからこそウクライナの子供達の苦境を思う。一日も早い平穏な日常が待たれる。

ひとしきり弾む会話や豆御飯 馬場 征彦

豆飯は初夏限定の塩味の炊き込みご飯。季節の旬の味で盛り上がる一家団欒の様子を一句に。

竹の子に興味津々パンダの子 野口 浩平

パンダの主食は竹。もちろん竹の子も大好物。旨そうに食べる様子に子供たちも興味津々。

妻卒寿吾去年卒寿五月晴 東山 榮

ご夫婦で卒寿を迎えたお目出たい一句。全部漢字で表現した工夫が漢詩のようで面白い。

茅葺きの大屋根浮かぶ麦の秋 矢島 一雄

初夏の日本の古典的な風景。今は地方でもめつたに見られない。さわやかな農村の一景である。

きのうから桜若葉の散歩道 池田ときえ

「花は葉に」への季節の移ろい。花の下から若葉の影の散歩道。季節の変わり目を上手く表現。

青嵐もう暫くはこの星に 田中 信昭

宇宙に浮かぶ青い星。青嵐吹く日本。その片隅で平穏な日々がある。俳句を詠む幸せもある。

水鉄砲うちて消したや戦の火 河合 和郎

北の国では地獄のような戦乱が続いている。願わくは一日も早く戦火の消え去ることを。

編集後記

コロナ禍の影響で2年間編集に携わってききましたが、あと1号で終わります。皆様のご協力に感謝です。内山 雅之

